

現地に足を運んでみなければ、現実を知ることも

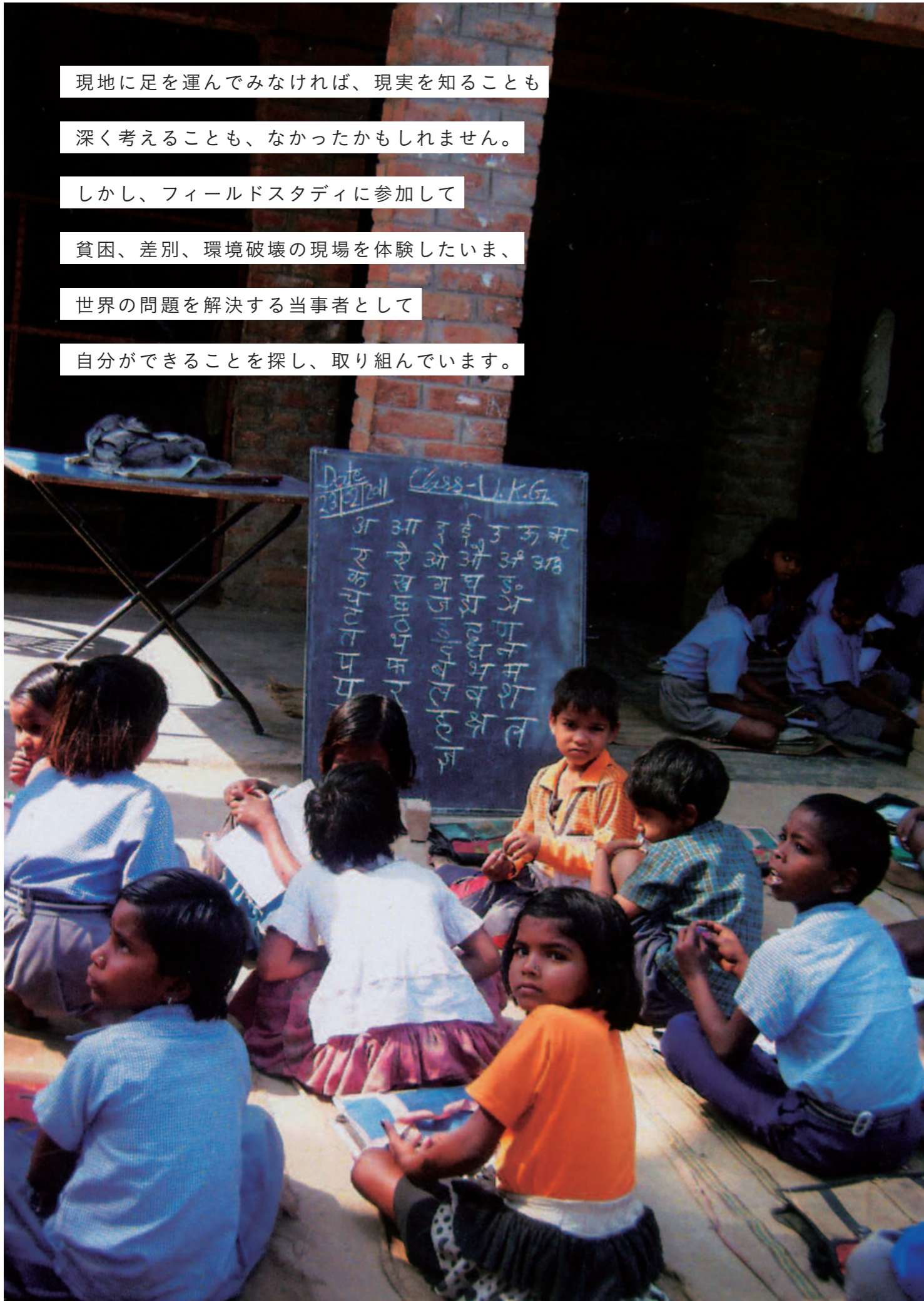
深く考えることも、なかったかもしれません。

しかし、フィールドスタディに参加して

貧困、差別、環境破壊の現場を体験したいま、

世界の問題を解決する当事者として

自分ができることを探し、取り組んでいます。



Field Study

フィールドスタディ

FS

恵泉の
実体験学習

発展途上、貧困、差別、森林破壊……。世界で起きている深刻な問題を現地で体験し、教室で学び頭で理解した知識を、五感をもって確実に身につける教育プログラムが「フィールドスタディ (FS)」です。現地で8日～2週間を過ごす「短期FS」と約5ヵ月間の「長期FS」があり、どちらも現地授業の効果を高める事前・事後学習とセットになっています。

〈短期フィールドスタディ〉

「短期FS」では、2年生以上を対象に夏期・春期休暇を利用して8日～2週間の現地授業を実施します。訪れるのは東南アジア、北アメリカ、オセアニア諸国や沖縄の八重山諸島など。出発までに各地域の基礎知識を学ぶ「社会調査方法論I」を履修します。

地域	担当教員/学科/タイトル
ニューヨーク	漆畑智晴 (国際社会学科) 「グローバル・シティ、ニューヨークに暮らす人々の多様性と諸問題」
サンタクルーズ、サンフランシスコ	宮内泰之・小林幹夫 (社会園芸学科) 「持続可能な「食」「農」「環境」のあり方について考える」
デリー、バナラス、アーグラ	杉山圭子 (国際社会学科) 「北インド・ガンジス平原探訪～歴史と遺跡を身近に、成長の時代を並走する」
島根、江原道、ソウル ほか	李泳采 (国際社会学科) 「東アジア社会FS一日・中・韓の辺境地から「平和共同体」を考える」
シムリアップ、ルアンパバーン ほか	高橋清貴 (国際社会学科) 「カンボジアとラオスの農村で考える持続可能な社会のかたち」
インドネシア (バリ・ロンボク島)	片倉芳雄 (現代社会学科) 「環境と開発を現場で学ぶ」
チェンライ、ミャンマー ほか	堀芳枝、押山正紀 (国際社会学科) 「タイ・ミャンマー (ラオス)・中国雲南省の山地民の暮らし、女性と子どもの問題」
タイ	体験学習委員会 「「貧困と子ども」「持続可能な農業とコミュニティ」などを現場で体験し、学ぶ」

(2014年度実施)

〈長期フィールドスタディ〉

「長期FS」は、タイで実施する約5ヵ月間のプログラムです。協定校のチェンマイ大学でタイ語などを約2ヵ月学んだあと、山岳民族の村や農村で約3ヵ月のフィールドワークを行い、開発と自然保護、経済格差、感染症など複雑な問題への理解を深めます。

Open Campus で恵泉体験!

体験記をもっと見たい!聞きたい!に応えます

体験学習プログラム説明会 (FS) オープンキャンパスでは体験学習に参加した学生が、自らの体験を発表します。

Field Study schedule

タイの農村で、
現地の人と生活体験

高橋 由佳
国際社会学科 4年
東京・佼成学園女子高等学校 出身

2013年6月

事前学習

「社会調査方法論II」「タイ語III」受講、その他関連科目

2013年8月

現地講義

チェンマイ大学 (CMU) で、タイ語やタイの歴史、社会、文化、開発問題について学ぶ
タイ農村や山地民族の村へフィールドトリップ、NGO 訪問

2013年10月

体験学習

いのちを支える食文化について学ぶ
「現地の人と同じ食材を食べ、人間の多様な食生活を知る」



タイ語やカレン語による、農村での会話はチャレンジの連続。理解し合えた喜びは大きな自信につながりました。

現地の人と食卓を囲んで同じ物を食べながら調理法などを聞き、日本では経験できない食文化を理解しました。



2014年4月

帰国後、事後学習

フィールドスタディVI (ステップアップ・タイ) 受講
まとめとレポート作成、学びの振り返り。FS 報告会や恵泉祭などで研究発表

長期FSの体験記はこちら!

恵泉 タイ・チェンマイからの手紙 検索